

離島巡回診療同行実習を終えて（竹島・硫黄島）

中尾 寿奈

4月17日、フェリーみしまに乗って私たちは竹島に向かいました。竹島で2泊、そして3日目は硫黄島に移動して1泊し、4日目に黒島を巡回する診療チームと別れ鹿児島に帰ってきました。竹島は名前の通り竹林が広がりどかどかで、お隣の硫黄島は竹島とは全く違う景色で黄土色の海や、黄色い硫黄が岩肌から出ている硫黄岳に圧倒されました。大自然の中での実習でした。



竹島の大きなガジュマルの木



硫黄島の港は絵の具のような黄土色

歯科巡回診療車のこじか号は1台に何でも設備が整っていて驚きました。しかし公民館に設置した診療設備は普段実習で目にしている大学病院のものとは違い、ライトも自由自在には動かない、機械の調子が悪くても代わりがないのでその場で調整するなど、決して恵まれた環境ではありませんでした。また、各島での診療は約1日半と限られた時間で患者さんに満足していただく治療を行わなければなりません。限られた設備と時間の中にも関わらず先生や衛生士さんたちは、患者さんの話にじっくり耳を傾け普段と変わらない丁寧な診療を提供していました。そして患者さんからの相談にもものっていました。年に2回しか巡回診療は来ないので、痛くならないようにするつまり予防が大切です。患者さんが診療を待っている間や治療後の会計までの時間を有効に使い、子どものおやつ習慣を聞いて間食指導を行ったり、フロスの指導などを行っている光景は普段の診療でももちろんあると思いますが印象的でした。

4月ということで各島では学校検診も行いました。学校検診は普段の実習では参加できないのでとても貴重な経験の一つでした。一般的に学校検診は学校に先生が来て行うものだと思っていたので島の小中学校全生徒が一斉に訪れ、その直後指導やレントゲン写真を撮影して虫歯処置を受けてから帰っていくのはとても驚きました。虫歯が複数ヶ所ある子も限られた時間の中で全部の虫歯の処置を行わなければなりません。レントゲン写真診査を行った後、その場で適切な治療計画を立ててしまう先生にも驚きました。そしてしっかり治療を受けて元気な声でお礼を言い帰って行きました。そんな治療が終わった患者さんの安心した顔や笑顔を見ると私も嬉しくなりました。

昨年私は離島へき地医療人育成センターが主催した北山トレーニングキャンプというものに参加しました。これは始良市の北山地区で地域医療の現状を学ぶというもので、そこで実際に地域の方の御宅に

訪問し直接お話をすることがあり、とても貴重であり印象深いお話が聞けました。今回せっかく離島に行けることになったので、島の方とも島での暮らしについてお話できたらいいなど出発前に思っていました。今回の実習で患者さんに問診をとらせていただく機会が何度かあったので、その際これは良い機会だと思いお話をしました。小さな子供をお持ちのお母さんからは、島で子供が熱を出したらどうされるか聞いたところ、島では感染源がないからかあまり風邪をひかず、逆に県本土に遊びに行くと風邪をひいてしまう話や、歯の痛みを訴えて来られた患者さんからは、「島から診療所のある県本土まで行って帰るのは日帰りではできないし、体力も必要なので今回来てくれて本当に助かる」という言葉を聞くことができました。



こじか号で治療中 X線撮影もこの中で



大活躍のこじか号

今回私たちは3泊4日で竹島と硫黄島の2島に同行させていただき、島にも約68時間と長い間滞在できたことを幸せに思います。3泊4日があつという間に感じてしまうとても楽しい実習でした。離島診療に興味のある方は是非参加してみてください。また今の時点でたいして興味のない方でも行ってみてから考えたり得られるものはあると思います。なので是非チャンスがあれば行ってみてください。

貴重な機会を与えてくださった方々、先生方、歯科医師会の方々、島のみなさん、本当にありがとうございました。短い時間の中で他ではできないたくさんの素敵な経験をすることができました。残りの学生生活、歯科医師になってからも今回の経験を生かせるよう努めて行きたいと思います。そしてまたいつか島を訪れたいと思います。



竹島からみた診療後の夕焼けと硫黄島



全員集合